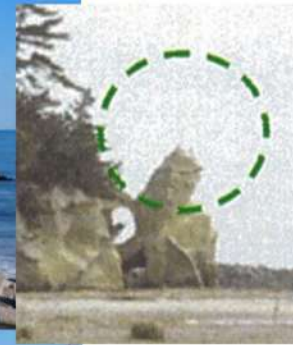


今 新田川では
渋佐(河口アーカイブ)

ここは新田川の源流から長い時間をかけ流れ、太平洋の大海原へと注ぐ渋佐の河口です。朝霜が降りてキリリと引き締まった朝です。堤防は高く整備されています。

平成18年の本紙の写真です。そうです、あの岩が震災でなくなりました。特異な形のこの岩は、この場所の目印で、海鷗(う)たちが羽を休める場所でした。

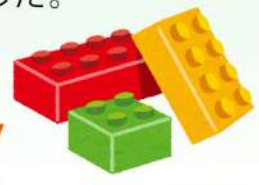
地球はこうして少しずつ形を変えていくのです。植樹された防風林もやがて大きく育ち海岸の景色を形作っていくのでしょう。私達も現状に甘んずることなく時代に合わせしなやかに生きたいものです。



大工さん、今日はどんな仕事？

この日はM様邸のお庭リフォーム(´・ω・`)
インターロッキングブロックを敷く作業です。

←②
目地に洗砂を詰めます。面積が大きいので、このようにして詰めていきました。



③→
完成まではもう少しだけかかります。本紙のプリントの締め切りが迫ってますので完成の写真は次号をお楽しみに(*´3`)



↑①
地盤に砂を敷き、十分に転圧して曲がらないようにブロックを並べていきます。



今年も一年ご愛顧ありがとうございました！

隔月でお届けしている新田川通信も早いもので12月号となりました。今年も新型コロナの脅威が続いた中、資材の高騰・不足…そんな状況にも皆様の温かいご理解に支えられまして、何とか1年を乗り越えることができましたこと、深く感謝申し上げます。くる年は、皆様にはさらに良い年が訪れますように、お祈り申し上げます。

ありがとうございました(*^^*)
社員一同



《大工さんのアイテム》

すみつぼ 墨壺



大工さんの墨壺を借りてきました(∩o∩)



糸を持ち上げて...



パチン！と弾くと直線が引けます。



↑会社にあった古い木製の墨壺。亀の装飾が施されています。

ちゃんと直線が引けてます♪

■墨壺

材木などに墨で直線を引くための工具。

昔ながらのものは木製で、壺の部分に墨を含んだ綿が入っており、糸車の糸をピンと張って糸をはじくと、簡単に直線が引けます。墨と糸さえあれば正確に直線が引けるため、似たような道具が古代エジプトでも使用されていたという話もあるほど人類の歴史に欠かせない便利な道具です。

最近の建築現場では、手軽に手に入るプラスチック製の墨壺や、『チョークライン』という、墨の代わりにチョークの粉が入っているものも増えています。また、材木などに直接線を引かず、真っ直ぐなレーザー光線を照射する『レーザー墨出し器』という機械も登場し、大工さんの道具も近年急激に様変わりしています。



↑チョークライン



←レーザー墨出し器 (水平・鉛直十字にレーザー照射可能)

見直そう火災警報器！！

異常乾燥注意報が報じられる季節ですね。消防庁の発表では全国で14分に1件火災が起きているそうです。すでに設置済みでも10年ごとの交換が必要です。

どこにつければいいの？

義務の設置場所は、**寝室の天井、寝室が2階にある場合は階段の天井**です。他に**台所**にもあると安心です。

しまった！！まだだった！！

そんな方は弊社にご相談ください。大切なご家族を守りましょう。



No More コロナ! One More HAPPY!
買って回って集めてチャンス!
南相馬市内参加店で3種類のシールを集めて応募しよう!

当選総額 **1億円** 相当 本数 **15,300本**

大抽選
キャンペーン

2021 12.1 ▶ 2022 1.31

のまたん商品券をプレゼント!!

《南相馬市消費喚起応援事業》

No More コロナ!
One More HAPPY!
買って回って集めてチャンス!

令和3年度南相馬市の消費喚起応援事業が始まりました。弊社で工事していただきましたら**応募はがきと緑のシール**を差し上げます。他のお店で赤と青のシールを集めて、応募して、のまたん商品券をゲットしよう!! 期間は12月1日から来年1月31日まで。ぜひご利用ください。



年越しですね。そこで皆様にもよくお馴染みのお話をおひとつ どうぞ

「笠地藏」 岩手県

昔あるところに、うんとくたびれた茅(かや)屋根を葺く茅の一本もない爺さまと婆さまがあったと。

年越しの日に、婆さまはかねがね丹精込めて溜めて置いた糸躰(いとへそ)を取り出して、

「爺さま爺さまこれでも町さ持って行って、暮の町の用ば足してきておくれな。」と、言ったと。

(**糸躰とは紡いだ糸を環状に巻いたもの。)**

爺さまは、そんな大事なものを、でも仕方ないな。と言って持って行ったが、誰もこの年越しに糸躰など相手にしてもらえなかったと。

帰る途中で、これもまた売れないで困っていた笠売りと出会ったと。笠売りは爺さまをみると、「ときにそちらの糸躰売りの爺さまなあ、なんぼ売れない。師走ともなれば誰も彼も忙しいと見えて一笠も売れないが、困ったもんだ。

どうせ売れない者同士ならば、おらの笠とその糸躰を取替っこしねがい。」と、言った。

「そんだったら、それもよかべな」と、気のいい爺さまは、笠五つと糸躰を取り替えて帰るごににしたと。

しばらく歩いていくと、野中の六地藏さまが、雪コかぶって頭から濡れてたっていた。

これを見ると、爺さまは、

「やあやあ、お地藏さま、それではさぞかし冷たかべな。ちょうどここに笠を持ってらるから、おあげもうすべ」と、五つの笠をみんなお地藏さまにかぶせ、あどの一つのお地藏さまには、継ぎはぎだらけの自分の古手ぬぐいをおかぶせ申して、家さかえってきたと。



「婆な、婆な、今かえったじえ」
「あや、爺さま、糸躰はなんぼにうれただ。」
「それがさ、駄目だったでえ」と、爺さまは、町で笠売りに合って、笠と糸躰を取り替えたことや、その笠を雪に濡れている野中の六地藏さまさおかけ申してきたことなど、こまかく話した。
「そうさか。それはまだええ功德(くどく)してきたごど。そんではあ今年も漬け菜噛み噛み、湯でも飲んで歳とるべ」と、早く寝てしまった。

ところが夜中頃になると、表のほうで、「じょいさ、じょいさ」と、何か曳(ひ)いで来るような掛け声が聞こえてきた。「婆な、婆な、この歳越しの晩げえ、どこでが、石でも引く人だちあるよだな」「そんだなす。だんだんこっちゃん来る様だねえさか」「はで、ほんどだ」と、言っているうちに、とぶぐち(玄関)さ、どさっと何か重たい物ば置いたようば音がした。



「婆な、婆な、今のはおら家のようななす」と、爺さまが起きるととぶぐちの戸ば、がらり開けて見ると、年越し祝いのお米だの肴(さかな)だのお金子(かね)だのが、ずっぱりはいつている吠(かます)がそこに置いてあって、笠と手ぬぐいかぶった六地藏さまだちが、「じょやさ、じょやさ」と、向こうさ行く姿が見え申したとさ。これもお地藏さまへ爺さまが功德をしたからだという話

どんど払(はれ)エ。